令 和 ２ 年 ６ 月 30 日

第 146 回火山噴火予知連絡会による全国の火山活動の評価

全国の主な火山活動評価

桜島

南岳山頂火口では活発な噴火活動が続いており、広域の GNSS 連続観測では、姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部で長期にわたり供給されたマグマが蓄積された状態が継続しています。2019 年９月頃から、桜島島内での山体の膨張・隆起や姶良カルデラの地下深部の膨張を示す地盤変動が観測されていましたが、桜島島内の変動については４月頃から概ね停滞しています。南岳山頂火口では、爆発回数は減少傾向にあるものの火山灰の噴出量に大きな変化はなく、爆発規模が大きくなる傾向がみられ、規模の大きな爆発が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）発表中

口永良部島

口永良部島では 2020 年１月から２月にかけて、大きな噴石や火砕流を伴う噴火が時々発生しました。新岳火口直下の火山性地震は３月までは多い状態で経過し、その後は少ない状態で経過しましたが、３月下旬からは口永良部島周辺や新岳西側山麓において、時々地震が発生しています。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は多い状態です。２月頃から新岳火口の熱活動も高まってきています。これらのことは、今後噴火活動がさらに活発化する可能性を示唆します。

GNSS 連続観測では、島内の基線において、2019 年 10 月頃からわずかな伸びがみられ、１月頃から明瞭な伸びとなっています。このことから、地下ではマグマが蓄積されつつあると推定されます。その蓄積量は 2015 年噴火発生前の状態に匹敵します。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が多い状態も地下でのマグマ活動の活発化を示します。

2019 年 10 月以降の火山活動は、2018 年から 2019 年の火山活動と同程度以上で推移しており、2014 年から 2015 年に匹敵する火山活動に発展する可能性も考えられます。

口永良部島では、規模の大きな噴火に先行して、山麓での大きな地震の発生、新岳火口直下における火山性地震の増加、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量の減少などの現象がみられることもあるため、火山活動の推移には注意が必要です。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）発表中

西之島

2019 年 12 月６日に噴火の再開が確認されて以降、山頂火口からの噴火と山腹からの溶岩の流出が続いており、噴火活動は活発な状態です。６月中旬以降は、大量の火山灰を噴出するなど特に活発な噴火が確認されました。噴火活動は、2013～2015 年、2017 年及び 2018 年と同様に、山頂火口とその周辺で活発に継続しています。

地表面温度は、2017 年の噴火活動よりも高い状態が継続し、５月下旬以降は更に上昇する傾向が認められます。

2019 年 12 月以降の溶岩噴出率は、2013 年～2015 年及び 2017 年の噴火活動を上回る規模であり、６月中旬以降急激に増加し、これまでで最大になっていると考えられます。

今後も、溶岩の流出や大きな噴石及び火山灰噴出を伴う活発な噴火活動が継続する可能

性が高く、海への溶岩流入による陸地拡大が継続すると考えられます。

【参考】火口周辺警報（入山危険）発表中

草津白根山

白根山（湯釜付近）では、1982年から1983年にかけて小規模な水蒸気噴火を繰り返しましたが、その後の火山活動はおおむね静穏に経過していました。しかし、2011年５月に火山性微動と傾斜変動が観測された後、2014年及び2018年には、湯釜付近の浅部に火山性流体の一時的な供給の増加によると考えられる火山性地震の増加や浅部の膨張などがみられました。さらに、GNSS連続観測でも、草津白根山の北西～西側の深部の膨張を示唆する変化が繰り返し観測され、それらは現在も収縮に転じていません。また、本白根山では、2018年に水蒸気噴火が発生しました。

以上のことから、草津白根山の火山活動は、中長期的にみると活発な状態になっています。草津白根山浅部の活動だけではなく、草津白根山の北西もしくは西側の地殻変動や周辺の地震活動にも注意していく必要があります。

白根山（湯釜付近）

白根山（湯釜付近）の火山活動は、2018年以降、高まった状態が継続していましたが、湯釜付近の浅部の地震活動や膨張を示す傾斜変動に低下傾向がみられています。しかしながら、地震の回数は増減を繰り返すなど地震活動は現在も継続しており、湯釜湖水の一部の成分濃度には明瞭な低下傾向がみられていないなど、湯釜付近の浅部の熱水活動はやや高い状態が続いていると考えられます。引き続き、小規模な水蒸気噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

本白根山

鏡池北火口付近のごく浅部を震源とするごく微小な地震は徐々に減少し、2018年12月以降少ない状態で経過しています。鏡池北火口の北側の火口列からの噴気は観測されていません。火山活動は、現在のところ静穏な状態ですが、逢ノ峰付近では時々地震が発生しており、引き続き火山活動の推移に注意する必要があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

浅間山

2019年10月以降、火山活動は静穏に経過しましたが、2020年６月20日頃から浅間山の西側での膨張を示すと考えられる傾斜変動が継続し、山体浅部を震源とする火山性地震が増加しています。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量の増加や火口底温度の上昇も認められています。浅間山では火山活動が高まっており、今後、小噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

阿蘇山

中岳第一火口では2019年４月の噴火以降、断続的に噴火活動が継続していますが、噴出率は2020年２月下旬以降、低下しています。噴出物には新しいマグマに由来した物質が多く含まれていましたが、その割合は減少傾向にあります。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は多い状態で推移していましたが、３月頃から減少傾向がみられています。火山性微動の振幅は、2019年12月から2020年２月中旬にかけてはやや大きな状態で経過しました。２月下旬以降は概ね小さな状態で推移しましたが、５月中旬に一時的に大きな状態となる

など、火道の状態の不安定を示唆する現象が観測されました。中岳第一火口では、火映や赤熱現象が見られる等、火口内の熱活動は高まった状態でしたが、５月中旬頃から低下しています。しかし、湯だまりを形成するには至っていません。GNSS 連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線の伸びは停滞しています。このように、火山活動に低下傾向はみられるものの、やや高まった状態で経過しており、今後も噴火活動が継続する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

霧島山

広域の GNSS 連続観測では、霧島山の深い場所でのマグマの増加を示すと考えられる基線の伸びは 2019 年２月以降停滞しています。新燃岳では 2018 年６月 28 日以降、噴火は観測されていませんが、2019 年 11 月頃から新燃岳火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返すなど、火山活動が高まった状態となっています。

霧島山深部には、これまでに多量のマグマが蓄積されていると考えられ、広範囲の地震活動も続いていることから、火山活動の推移を引き続き慎重に監視する必要があります。

えびの高原（硫黄山）周辺

硫黄山では、2018年４月27日以降、噴火は発生していません。噴気活動は活発な状態が続いていますが、2019年１月以降はその領域のさらなる拡大は認められません。硫黄山付近では、火山性地震は少ない状態で経過しています。GNSS連続観測では、硫黄山近傍の基線の伸びは2019年２月頃から概ね停滞しています。硫黄山では、現時点では噴火の兆候は認められませんが、火山活動の推移には留意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

新燃岳

新燃岳では2018年６月28日以降、噴火は発生していませんが、2019年11月頃から新燃岳火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返しています。また、火口西側斜面の割れ目付近において地熱域のわずかな拡大や噴気活動の再開が認められ、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が増加するなど、火山活動が高まった状態となっています。一方で、地殻変動のデータに特段の変化がみられていないことから、現在のところ規模の大きな噴火に至る可能性は低いと考えられます。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

御鉢

御鉢の火山活動に特段の変化はなく、現時点では噴火の兆候は認められませんが、火山活動の推移に留意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

薩摩硫黄島

４月 29 日に噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上 1,000ｍまで上がりました。噴火の前後で地震活動等に特段の変化はありませんが、夜間に火映が観測され、時折噴煙が高くなるなど、長期的には熱活動が高まった状態が続いています。硫黄岳火口周辺では、噴火に警戒する必要があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

諏訪之瀬島

４月 28 日から 29 日にかけて噴火活動が活発化しました。それに先駆けて、GNSS 連続観

測では、2019 年 12 月頃から 2020 年３月頃に島内の基線でのわずかな伸びがみられ、また、西側海域での地震活動の活発化及び火山ガス（二酸化硫黄）の放出量の増加がみられました。この間に地下から供給されたマグマが浅部へ移動し、噴火活動の活発化に至ったと推定されます。

御岳（おたけ）火口では長期的に噴火を繰り返しており、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されます。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

十勝岳

2006 年以降継続していた山体浅部の膨張を示す地殻変動は 2017 年秋頃からほぼ停滞しているものの、山体浅部が膨張した状態は維持されています。火山性地震の一時的な増加、火山性微動や火山性地震と同期した傾斜変動は引き続き観測されており、振子沢噴気孔群や 62-2 火口では地熱域の拡大や火口温度の上昇が確認されています。火山活動の活発化を示唆する現象が観測されていますので、今後の活動推移には注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

焼岳

山頂付近では、微小な地震が継続して発生しており、また、緩やかな膨張が続いているとみられます。中長期的に焼岳の火山活動は高まってきており、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

各地方の主な活火山の火山活動評価

１．北海道地方

①　アトサヌプリ

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②　雌阿寒岳

地震は少なく、噴煙活動も低調に経過しており、火山活動は概ね静穏に経過しています。

・噴煙・噴気活動は低調に経過しています。
・中マチネシリ火口付近の地震は、増減を繰り返しながら 2014 年以前と比べるとやや多い状態が継続しています。
・ポンマチネシリ火口では、2019 年５月に赤沼火口直下を震源とする地震が一時的に増加した以外は、少ない状態で経過しています。
・2016 年 10 月下旬以降の、雌阿寒岳の北東側に膨張源が推定される地殻変動は、2019 年夏頃から停滞していると考えられます。
・全磁力連続観測では、2020 年４月頃からポンマチネシリ 96-1 火口南側の全磁力の緩やかな減少傾向が見られています。

③　大雪山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④　十勝岳

2006 年以降継続していた山体浅部の膨張を示す地殻変動は 2017 年秋頃からほぼ停滞しているものの、山体浅部が膨張した状態は維持されています。火山性地震の一時的な増加、火山性微動や火山性地震と同期した傾斜変動は引き続き観測されており、振子沢噴気孔群や 62-2 火口では地熱域の拡大や火口温度の上昇が確認されています。火山活動の活発化を示唆する現象が観測されていますので、今後の活動推移には注意が必要です。

・2006 年以降継続していた山体浅部の膨張を示す地殻変動は、2017 年秋頃からほぼ停滞しています。この変動は 2018 年から反転している可能性がありますが、その変動量はごくわずかであり、山体浅部が膨張した状態は維持されています。
・大正火口の噴煙の高さは 2010 年頃から、振子沢噴気孔群の噴気の高さは 2018 年４月下旬頃から、やや高い状態が継続しています。
・６月７日以降、夜間に 62-2 火口で火映が観測されています。その後現地で行った調査では、62-2 火口内に明瞭な高温域が認められ、火口温度は 2019 年６月の約 200℃から約 400℃に上昇していることを観測しました。
・2018 年５月下旬以降、火山性地震の一時的な増加や火山性微動が時々発生しています。また、火山性微動や火山性地震と同期した傾斜変動が引き続き観測されています。

⑤　樽前山

火山活動は概ね静穏に経過しています。山頂溶岩ドーム周辺では、1999 年以降、高温の状態が続いていますので、突発的な火山ガス等の噴出の可能性があります。

⑥　倶多楽

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑦　有珠山
火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧　北海道駒ヶ岳
火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨　恵山
火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

２．東北地方

①　岩木山
火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②　八甲田山
火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③　十和田
火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④　秋田焼山
火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑤　岩手山
火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑥　秋田駒ヶ岳
山頂付近では、2017 年９月以降、火山性地震の活動がやや活発な状況が続いています。また、女岳付近では地熱活動も継続的に認められており、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

⑦　鳥海山
火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧　栗駒山
火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨　蔵王山
火山活動に特段の変化はなく、概ね静穏に経過しています。

⑩　吾妻山
地震活動、地殻変動に特段の変化はなく、概ね静穏に経過しています。一方、大穴火口付近における火山ガスの放出や熱活動は、低下傾向にあるものの継続しており、突発的な噴出現象の発生等、一時的に活動が高まる可能性があることに留意する必要があります。

⑪　安達太良山
火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑫　磐梯山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

３．関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

①　那須岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②　日光白根山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③　草津白根山

白根山（湯釜付近）では、1982年から1983年にかけて小規模な水蒸気噴火を繰り返しましたが、その後の火山活動はおおむね静穏に経過していました。しかし、2011年５月に火山性微動と傾斜変動が観測された後、2014年及び2018年には、湯釜付近の浅部に火山性流体の一時的な供給の増加によると考えられる火山性地震の増加や浅部の膨張などがみられました。さらに、GNSS連続観測でも、草津白根山の北西～西側の深部の膨張を示唆する変化が繰り返し観測され、それらは現在も収縮に転じていません。また、本白根山では、2018年に水蒸気噴火が発生しました。

以上のことから、草津白根山の火山活動は、中長期的にみると活発な状態になっています。草津白根山浅部の活動だけではなく、草津白根山の北西もしくは西側の地殻変動や周辺の地震活動にも注意していく必要があります。

白根山（湯釜付近）

白根山（湯釜付近）の火山活動は、2018年以降、高まった状態が継続していましたが、湯釜付近の浅部の地震活動や膨張を示す傾斜変動に低下傾向がみられています。しかしながら、地震の回数は増減を繰り返すなど地震活動は現在も継続しており、湯釜湖水の一部の成分濃度には明瞭な低下傾向がみられていないなど、湯釜付近の浅部の熱水活動はやや高い状態が続いていると考えられます。引き続き、小規模な水蒸気噴火が発生する可能性があります。

・湯釜付近の浅部の膨張を示す傾斜変動は、2019年９月上旬頃から再び観測されていましたが、2020年５月頃から季節変動を超える明瞭な変動は認められなくなりました。
・2018年９月下旬に増加した湯釜付近の浅部の火山性地震は増減を繰り返し、2019年９月中旬以降はやや多い状態が継続しました。2020年４月に減少がみられましたが、その後は増減しながらやや多い状態で推移しています。
・全磁力連続観測では、2018年４月頃から７月末頃にかけてみられた水釜付近の地下の温度上昇を示唆する変化は、その後も一部観測点で継続しています。
・湯釜北側噴気地帯の火山ガスの硫化水素濃度及び濃度比（二酸化炭素/硫化水素）に、湯釜付近の浅部への火山性流体の供給増加を示す変化は認められません。また、湯釜湖水の成分分析では、湯釜への高温の火山性流体の供給は継続していると考えられますが、その増加を示す傾向は認められません。
・湯釜火口湖の水温や白根山の地表面の温度分布に顕著な変化は認められません。
・GNSS連続観測では、2014年にみられたような浅部の膨張を示す変動は認められません。また、深部の膨張によると考えられる変動も認められません。

本白根山

鏡池北火口付近のごく浅部を震源とするごく微小な地震は徐々に減少し、2018年12月

以降少ない状態で経過しています。鏡池北火口の北側の火口列からの噴気は観測されていません。火山活動は、現在のところ静穏な状態ですが、逢ノ峰付近では時々地震が発生しており、引き続き火山活動の推移に注意する必要があります。

・2018年１月23日の噴火発生後、多発した鏡池北火口付近のごく浅部を震源とするごく微小な火山性地震は徐々に減少し、2018年12月以降は少ない状態で経過しています。なお、逢ノ峰付近を震源とする地震は時々発生しています。
・噴火発生後、鏡池北火口の北側の火口列から、ごく弱い噴気が時折確認されていましたが、2018年２月22日を最後に観測されていません。地表面温度分布に顕著な変化は認められません。
・GNSS連続観測では、特段の変化は観測されていません。

④　浅間山

2019年10月以降、火山活動は静穏に経過しましたが、2020年６月20日頃から浅間山の西側での膨張を示すと考えられる傾斜変動が継続し、山体浅部を震源とする火山性地震が増加しています。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量の増加や火口底温度の上昇も認められています。浅間山では火山活動が高まっており、今後、小噴火が発生する可能性があります。

・６月20日頃から、浅間山の西側での膨張を示すと考えられる傾斜変動が継続しています。GNSS連続観測では、これまでのところ明瞭な地殻変動は認められていません。
・火山性地震は、2019年10月上旬以降少ない状態で推移していましたが、６月20日から山体浅部を震源とする火山性地震が増加しています。発生している地震の多くはBL型地震です。また、20日には火山性微動も発生しました。
・火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は2019年10月以降、200トン以下と少ない状態でしたが、６月25日の観測では1,000トンを観測するなど多い状態が続いています。
・赤外熱映像の観測では、６月下旬に入り火口底温度の上昇が認められます。
・20日以降の山頂火口からの噴煙の状況は、白色の噴煙が火口縁上概ね200m以下で経過しており、噴煙量の増加はみられません。また、火映は観測されていません。

⑤　新潟焼山

火山活動は静穏な状態ですが、これまでにも噴気活動の活発化を繰り返しているため、今後の活動の推移に注意が必要です。

⑥　弥陀ヶ原

弥陀ヶ原近傍の地震活動は静穏な状態が続いています。立山地獄谷では2012年６月以降、噴気の拡大や噴気温度の上昇など熱活動の活発化がみられており、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

⑦　焼岳

山頂付近では、微小な地震が継続して発生しており、また、緩やかな膨張が続いているとみられます。中長期的に焼岳の火山活動は高まってきており、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

・山頂付近の微小な地震は１日あたり数回程度の頻度で発生し、少ないながらも地震活動は継続しました。空振を伴う火山性地震は観測されませんでした。
・GNSS連続観測では、山頂付近の観測点で基線のわずかな伸びが継続しており、山頂付近が緩やかに膨張していると考えられます。なお、傾斜計による観測では火山活動によるとみられる変動は認められていません。

・黒谷火口では、100m以下の弱い噴気を時々観測しています。黒谷火口以外の場所の噴気も概ね 100m以下の高さで経過しています。
・赤外熱映像による観測では、火山活動によるとみられる顕著な温度変化は認められません。
・４月 22 日以降、焼岳周辺では山頂の東～北東側のやや深いところを震源とする地震活動が活発化しています。今回の地震活動に伴って、噴気活動や浅部の地震活動に変化は認められていません。

⑧　乗鞍岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨　御嶽山

2014 年９月 27 日に噴火が発生した剣ヶ峰山頂の南西側の火口列からの噴気活動や山頂直下付近の地震活動は長期的な低下傾向が続いており、2014 年噴火口直下浅部が変動源とみられる山体の収縮も継続しています。

現在の火山活動には静穏化の傾向がみられることから、噴火が発生する可能性は低くなっていますが、噴気活動が活発な一部の噴気孔では、火山灰等のごく小規模な噴出が突発的に発生する可能性があります。

⑩　白山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑪　富士山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑫　箱根山

地震活動は低調で、火山活動によると思われる地殻変動は観測されていません。ただし、大涌谷周辺の想定火口域では活発な噴気活動が続いているため、火山灰等の突発的な噴出現象に注意する必要があります。

⑬　伊豆東部火山群

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑭　伊豆大島

三原山山頂火口内及びその周辺の噴気活動は低調で、火山性地震は少ない状態で経過しており、ただちに噴火が発生する兆候は認められません。

長期的に継続していた山体の膨張は、2018 年頃からほぼ停滞しています。これまでの膨張により地下深部にマグマが供給された状態にあり、火山活動はやや高まった状態にあると考えられますので、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

なお、短期的には、約１～３年周期で膨張と収縮を繰り返す地殻変動がみられ、膨張に伴い地震活動が活発化する特徴がみられます。2019 年 10 月頃からは概ね収縮の傾向がみられます。

⑮　新島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑯　神津島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑰　三宅島

地震活動は静穏で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も少ない状態が続いていますが、山体深部の膨張を示す地殻変動は続いており、山体浅部の膨張を示すと考えられる村営牧場南―雄山北東間で伸びの傾向が 2019 年４月頃からみられるようになりました。火山活動は徐々に高まり始めたと考えられます。また、主火孔の噴煙活動は弱いながらも続いており、火口内での噴出現象が突発的に発生する可能性があります。

⑱　八丈島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑲　青ヶ島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑳　西之島

2019 年 12 月６日に噴火の再開が確認されて以降、山頂火口からの噴火と山腹からの溶岩の流出が続いており、噴火活動は活発な状態です。６月中旬以降は、大量の火山灰を噴出するなど特に活発な噴火が確認されました。噴火活動は、2013～2015 年、2017 年及び 2018 年と同様に、山頂火口とその周辺で活発に継続しています。

地表面温度は、2017 年の噴火活動よりも高い状態が継続し、５月下旬以降は更に上昇する傾向が認められます。

2019 年 12 月以降の溶岩噴出率は、2013 年～2015 年及び 2017 年の噴火活動を上回る規模であり、６月中旬以降急激に増加し、これまでで最大になっていると考えられます。

今後も、溶岩の流出や大きな噴石及び火山灰噴出を伴う活発な噴火活動が継続する可能性が高く、海への溶岩流入による陸地拡大が継続すると考えられます。

・上空からの観測では、噴火の再開が確認されて以降、島の中央部やや南に位置する火砕丘の山頂火口からの噴火と山腹からの溶岩の流出が認められ、活発な噴火活動が継続しました。大きな噴出物の飛散は火砕丘周辺までで、海上への落下は認められませんでした。６月中旬以降の噴火では、大量の火山灰を噴出しています。
・気象衛星ひまわりの観測で６月 14 日及び 15 日には噴煙高度が火口縁上 2,600m、26 日には火口縁上 4,400m と推定される噴火が確認されました。
・だいち２号の観測及び上空からの観測によると、溶岩流は火砕丘の西北西～北～南東方向に至る広範囲に流下し、海に達していました。また、海に流入した溶岩流により、西之島の北側を中心に西北西から南東側にかけて陸地の拡大が確認されました。
・気象衛星ひまわりの観測では、西之島の地表面温度は、島の南と西に大量の溶岩が流れた 2017 年噴火時よりも高い状態が継続し、５月下旬以降は更に上昇する傾向が認められます。
・だいち２号及び気象衛星ひまわりの観測によると、2019 年 12 月以降の噴火活動における溶岩噴出率は 2013 年～2015 年及び 2017 年の噴火活動を上回る規模と考えられます。４月中旬以降は、溶岩噴出率が増加傾向にあり、６月中旬以降は急激な増加がみられます。
・西之島に設置した地震計による観測では、４月以降地動振幅が増加し始め、６月中旬以降は、活発な噴火活動に対応した顕著な振幅増加が確認されました。

㉑　硫黄島

地殻変動や地震活動、噴気の状態など火山活動はやや活発な状態が続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

・火山性地震は、４月２日に日回数が 200 回を超えるなど一時的に活発な状態になり

ました。

㉒　福徳岡ノ場

長期間にわたり変色水が確認されており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されます。

４．九州地方・南西諸島

①　鶴見岳・伽藍岳

一時的な地震の増加はみられましたが、その他の火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

②　九重山

硫黄山の地熱域では温度の高い状態が続いています。2014 年以降、硫黄山付近の噴気孔群地下の温度上昇を示す全磁力の変化がみられており、また 2017 年６月頃からＢ型地震が時折発生していることから、わずかに火山活動が高まっている可能性があります。今後の火山活動に留意してください。

③　阿蘇山

中岳第一火口では 2019 年４月の噴火以降、断続的に噴火活動が継続していますが、噴出率は 2020 年２月下旬以降、低下しています。噴出物には新しいマグマに由来した物質が多く含まれていましたが、その割合は減少傾向にあります。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は多い状態で推移していましたが、３月頃から減少傾向がみられています。火山性微動の振幅は、2019 年 12 月から 2020 年２月中旬にかけてはやや大きな状態で経過しました。２月下旬以降は概ね小さな状態で推移しましたが、５月中旬に一時的に大きな状態となるなど、火道の状態の不安定を示唆する現象が観測されました。中岳第一火口では、火映や赤熱現象が見られる等、火口内の熱活動は高まった状態でしたが、５月中旬頃から低下しています。しかし、湯だまりを形成するには至っていません。GNSS 連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線の伸びは停滞しています。このように、火山活動に低下傾向はみられるものの、やや高まった状態で経過しており、今後も噴火活動が継続する可能性があります。

・中岳第一火口では、断続的に噴火活動が継続しています。
・2019 年７月の噴火開始から 2020 年４月末までの約９か月間の火山灰の総噴出量は 110 万トン程度でしたが、噴出率は 2020 年２月下旬以降少なくなっています。
・噴出物に含まれる新しいマグマに由来した新鮮な褐色～黒色のガラス片の割合は、2019 年８月まで増加し約４割となっていましたが、12 月以降減少し１割以下になりました。
・火山性微動の振幅は、2019 年 12 月から 2020 年２月中旬にかけて、やや大きな状態で経過しました。２月下旬以降は概ね小さな状態で推移しましたが、５月中旬に一時的に大きな状態となりました。
・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、多い状態で推移していましたが、３月頃から減少傾向となり、やや多い状態で推移しています。
・火山性地震、孤立型微動は、減少傾向はあるものの、概ね多い状態で経過しました。
・中岳第一火口では、火映や赤熱現象が見られる等、火口内の熱活動は高まった状態でしたが、５月中旬頃から低下しています。しかし、湯だまりを形成するには至っていません。
・全磁力観測では、火口浅部の温度に関して 2020 年５月から冷却が始まった可能性が

考えられます。
・GNSS 連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線の伸びは停滞しています。

④　雲仙岳

GNSS 連続観測では山体西部のマグマだまりに対応する変動は認められておらず、火山活動は概ね静穏に経過していますが、2010 年頃から普賢岳から平成新山付近の深さ概ね１～２㎞の火山性地震が時々発生していますので、今後の火山活動に留意してください。

⑤　霧島山

広域の GNSS 連続観測では、霧島山の深い場所でのマグマの増加を示すと考えられる基線の伸びは 2019 年２月以降停滞しています。新燃岳では 2018 年６月 28 日以降、噴火は観測されていませんが、2019 年 11 月頃から新燃岳火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返すなど、火山活動が高まった状態となっています。

霧島山深部には、これまでに多量のマグマが蓄積されていると考えられ、広範囲の地震活動も続いていることから、火山活動の推移を引き続き慎重に監視する必要があります。

えびの高原（硫黄山）周辺

硫黄山では、2018 年４月 27 日以降、噴火は発生していません。噴気活動は活発な状態が続いていますが、2019 年１月以降はその領域のさらなる拡大は認められません。硫黄山付近では、火山性地震は少ない状態で経過しています。GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線の伸びは 2019 年２月頃から概ね停滞しています。硫黄山では、現時点では噴火の兆候は認められませんが、火山活動の推移には留意が必要です。

・硫黄山周辺の湯だまり水の pH や電気伝導度は、特段の変化は認められません。マグマの関与を示す湧水の Cl/SO_4 比は 2020 年に入ってからは 2019 年以前よりも小さな値で推移しています。またこの Cl/SO_4 比の低下が西火口など広い範囲にまで観測されるようになりました。
・全磁力観測では、消磁傾向が継続していますが、その傾向は 2019 年４月頃から鈍化しています。
・３月上旬の精密水準測量結果では、硫黄山の地下 600～700ｍにあると推定される圧力源は、2018 年 12 月以降ほぼ変化のない状態でしたが、2019 年 11 月～2020 年３月は若干の膨張が推定されました。
・硫黄山の南側の噴気地帯や硫黄山の西側 500ｍ付近では、地熱活動の高い領域が広く点在していますが、拡大の傾向は認められません。

新燃岳

新燃岳では 2018 年６月 28 日以降、噴火は発生していませんが、2019 年 11 月頃から新燃岳火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返しています。また、火口西側斜面の割れ目付近において地熱域のわずかな拡大や噴気活動の再開が認められ、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が増加するなど、火山活動が高まった状態となっています。一方で、地殻変動のデータに特段の変化がみられていないことから、現在のところ規模の大きな噴火に至る可能性は低いと考えられます。

・新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は 2019 年 11 月頃から増減を繰り返し、４月 21 日には日回数が 300 回を超えるなど時々多い状態となりました。
・火口西側斜面の割れ目では、２月 13 日以降噴気が確認されています。また、３月上旬頃からは割れ目付近で地熱域のわずかな拡大を確認しています。

・火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は、４月から増加（100～500トン程度）しています。
・傾斜計では山体膨張を示す変化は認められていません。
・GNSS 連続観測では、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる基線の伸びは2019年２月以降停滞しています。

御鉢

御鉢の火山活動に特段の変化はなく、現時点では噴火の兆候は認められませんが、火山活動の推移に留意が必要です。

⑥　桜島

南岳山頂火口では活発な噴火活動が続いており、広域のGNSS連続観測では、姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部で長期にわたり供給されたマグマが蓄積された状態が継続しています。2019年９月頃から、桜島島内での山体の膨張・隆起や姶良カルデラの地下深部の膨張を示す地盤変動が観測されていましたが、桜島島内の変動については４月頃から概ね停滞しています。南岳山頂火口では、爆発回数は減少傾向にあるものの火山灰の噴出量に大きな変化はなく、爆発規模が大きくなる傾向がみられ、規模の大きな爆発が発生する可能性があります。

・南岳山頂火口における噴火活動は2019年９月以降再び活発となっています。爆発回数は2019年12月49回、2020年１月65回、２月67回、３月10回、４月14回、５月24回と、減少傾向がみられます。また６月４日の爆発では弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から３kmを超えて飛散しました。
・南岳山頂火口では、夜間に火映を観測しました。
・火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は、2019年12月1,000～3,000トン、１月3,400～4,700トン、２月1,900～3,100トン、３月1,300～3,400トン、４月1,700～2,100トン、５月1,200～2,700トンとやや減少傾向はみられますが多い状態で経過しました。
・鹿児島県が実施している降灰の観測のデータから推定した桜島の火山灰月別噴出量は、2019年11月約38万トン、12月約28万トン、2020年１月約23万トン、２月約36万トン、３月約16万トン、４月約28万トンと、概ね同程度で経過しました。
・火山性地震は増減を繰り返しながら概ね少ない状態で経過しました。山頂南西側を震源とするＡ型地震が１月から４月にかけて時々増加しました。３月22日には44回発生し、最大でマグニチュード2.0の振幅の大きな地震もみられました。火山性微動は時々発生しましたが、概ね噴火に伴うものでした。
・６月１日の噴火や６月４日の爆発に伴い、島内の伸縮計で大きな収縮が観測されました。桜島島内の傾斜計及び伸縮計及びGNSS連続観測の基線で、2019年９月上旬頃から山体の隆起及び膨張と考えられる変化がみられましたが、2020年４月頃から概ね停滞しています。
・昭和火口では2018年４月４日以降、ごく小規模な噴火も発生していません。

⑦　薩摩硫黄島

４月29日に噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上1,000ｍまで上がりました。噴火の前後で地震活動等に特段の変化はありませんが、夜間に火映が観測され、時折噴煙が高くなるなど、長期的には熱活動が高まった状態が続いています。硫黄岳火口周辺では、噴火に警戒する必要があります。

・硫黄岳山頂で、４月29日に噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上1,000ｍまで上がりました。この噴火による大きな噴石の飛散や空振は観測されていません。薩摩硫

黄島で噴火が発生したのは、2019年11月２日以来です。
・硫黄岳では引き続き火映を時々観測しました。
・硫黄岳火口で時々1,000ｍを超える噴煙活動が続いています。
・火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は、400～2,000 トンで、やや多い状態で経過しています。
・硫黄岳付近の火山性地震は少ない状態で経過し、噴火の前後で特段の変化はありませんでした。
・GNSS連続観測では、物草ー鹿児島三島（国）の基線で2015年頃から縮みの傾向が認められていましたが、2019年頃から停滞しています。

⑧　口永良部島

口永良部島では2020年１月から２月にかけて、大きな噴石や火砕流を伴う噴火が時々発生しました。新岳火口直下の火山性地震は３月までは多い状態で経過し、その後は少ない状態で経過しましたが、３月下旬からは口永良部島周辺や新岳西側山麓において、時々地震が発生しています。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は多い状態です。２月頃から新岳火口の熱活動も高まってきています。これらのことは、今後噴火活動が更に活発化する可能性を示唆します。

GNSS連続観測では、島内の基線において、2019年10月頃からわずかな伸びがみられ、１月頃から明瞭な伸びとなっています。このことから、地下ではマグマが蓄積されつつあると推定されます。その蓄積量は2015年噴火発生前の状態に匹敵します。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が多い状態も地下でのマグマ活動の活発化を示します。

2019年10月以降の火山活動は、2018年から2019年の火山活動と同程度以上で推移しており、2014年から2015年に匹敵する火山活動に発展する可能性も考えられます。

口永良部島では、規模の大きな噴火に先行して、山麓での大きな地震の発生、新岳火口直下における火山性地震の増加、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量の減少などの現象がみられることもあるため、火山活動の推移には注意が必要です。

今後の噴火活動に警戒する必要があります。
・新岳火口では、2020年１月11日に噴火が発生し（2019年２月２日以来）、噴火に伴う大きな噴石が火口から300ｍまで飛散するのを観測しました。１月27日にはやや規模の大きな噴火が発生し、山体が雲に覆われていたため噴煙、大きな噴石及び火砕流は確認できませんでしたが、火山性微動、空振、傾斜変動の観測データから、噴火の規模は2019年１月17日の噴火よりも小さいと推定されます。２月３日に発生した噴火では、山体が雲に覆われていたため噴煙は確認できませんでしたが、大きな噴石が火口から約600ｍまで飛散し、火砕流が新岳火口から南西側へ最長1.5km程度流下したのを確認しました。これらの噴火に先行して、新岳火口直下における火山性地震の増加、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量の減少がみられることがありました。
・それ以降、大きな噴石や火砕流を伴わないごく小規模な噴火が発生し、２月までは１割未満であった噴出物に含まれる本質物質の量が、４月から５月にかけては若干増加しています。
・新岳火口直下の火山性地震は、３月までは多い状態で経過しました。３月下旬からは、口永良部島周辺で火山性地震が発生しました。また５月20日には、規模は小さいものの新岳西側山麓付近の浅い場所を震源とする地震が発生しました。
・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、１日あたり700～3,400トンと多い状態で経過しています。５月上旬からの火山ガスの濃度比（二酸化硫黄/硫化水素）は、2014年から2015年の火山活動及び2018年から2019年の火山活動の時と同程度に高い値であり、浅部においてマグマからガスの分離が進行していることが推定されます。

・2018 年から 2019 年の火山活動及び 2019 年 10 月以降の火山活動において、火映を観測しています。2020 年２月頃からは、新岳火口西側割れ目付近の地熱域に 2018 年から 2019 年の火山活動にはみられなかったわずかな温度の上昇傾向がみられ、４月中旬以降、火映が見られるようになりました。
・GNSS 連続観測では、2018 年７月頃から停滞していた島内の基線に、10 月頃からわずかな伸びの変化がみられます。2019 年 10 月以降、新岳の西側海域のやや深いところの膨張を示唆する基線長の変化がみられ、2020 年１月頃から明瞭な伸びとなっており、一部の基線では 2015 年噴火発生前までの変動量に匹敵します。

⑨　諏訪之瀬島

４月 28 日から 29 日にかけて噴火活動が活発化しました。それに先駆けて、GNSS 連続観測では、2019 年 12 月頃から 2020 年３月頃に島内の基線でのわずかな伸びがみられ、また、西側海域での地震活動が活発化及び火山ガス（二酸化硫黄）の放出量の増加がみられました。この間に地下から供給されたマグマが浅部へ移動し、噴火活動の活発化に至ったと推定されます。

御岳（おたけ）火口では長期的に噴火を繰り返しており、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されます。

・御岳火口では、長期的に噴火を繰り返しており、その中で４月 28 日から 29 日にかけて噴火活動が更に活発化し、溶岩を間欠的に噴き上げる噴火が発生しました。この噴火活動の後には爆発も多発し、４月 28 日から 30 日にかけて 116 回発生しました。
・GNSS 連続観測では、島内の基線で 2019 年 12 月頃からわずかな伸びが３月以降鈍化しています。
・2019年11月頃から2020年３月頃まで諏訪之瀬島の西側海域で地震活動が活発化し、最大でマグニチュード 3.1 を観測しました。
・火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は、2,000～4,000 トン程度と多い状態で経過していましたが、４月中旬頃から減少傾向がみられました。
・2019 年末ごろから始まった深部からのマグマ供給の増加は、地殻変動、地震活動の活発化、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量の増加から、2020 年３月ごろまで続いたと考えられ、このマグマ供給の増加により、４月末ごろの更なる噴火活動の活発化につながったと推定されます。
・御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測しました。４月 28 日には目視で火映が確認されています。

その他の活火山の火山活動評価

以下の活火山では、いずれも火山活動は静穏な状況が続いています。

１．北海道地方

知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、雄阿寒岳、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

２．東北地方

恐山、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳

３．関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

高原山、男体山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、アカンダナ山、利島、御蔵島、
須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、
南日吉海山、日光海山

４．中国・九州地方・南西諸島

三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、
開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山

【参考】主な活火山の火山現象に関する特別警報・警報・予報の発表状況

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況 及び警戒事項	第145回（令和元年12月24日）以降の 特別警報、警報及び予報の発表状況及び 発表年月日
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2016年３月23日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	雌阿寒岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年12月21日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	大雪山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年３月18日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	十勝岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2015年２月24日噴火予報（レベル１、平常）
	樽前山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	倶多楽	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2015年10月１日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	有珠山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2008年６月９日噴火予報（レベル１、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	恵山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2016年３月23日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
東北地方	岩木山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2016年７月26日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	秋田焼山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2013年７月25日噴火予報（レベル１、平常）
	八甲田山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年７月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	十和田	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（平常）
	岩手山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2009年10月27日噴火予報（レベル１、平常）
	鳥海山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年３月27日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	栗駒山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年５月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	蔵王山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年３月６日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	吾妻山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年６月17日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	安達太良山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2009年３月31日噴火予報（レベル１、平常）
	磐梯山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2009年３月31日噴火予報（レベル１、平常）
関東・中部地方	那須岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2009年３月31日噴火予報（レベル１、平常）
	日光白根山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2016年12月６日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	草津白根山	噴火予報（活火山であることに留意）	2018年11月27日噴火予報（活火山であることに留意）
	草津白根山（白根山（湯釜付近））	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 湯釜火口から概ね１km の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。	2018年11月27日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況 及び警戒事項	第145回（令和元年12月24日）以降の 特別警報、警報及び予報の発表状況及び 発表年月日
関東・中部地方	草津白根山（本白根山）	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年４月５日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	浅間山	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 山頂火口から概ね２ｋｍの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。	2019年11月６日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意） 2020年６月25日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	新潟焼山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2011年３月31日噴火予報（レベル１、平常）
	弥陀ヶ原	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年５月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	焼岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2011年３月31日噴火予報（レベル１、平常）
	乗鞍岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年３月18日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	御嶽山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2017年８月21日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	白山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2015年９月２日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	富士山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	箱根山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年10月７日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	伊豆東部火山群	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2011年３月31日噴火予報（レベル１、平常）
伊豆・小笠原諸島	伊豆大島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	新島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年７月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	神津島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年７月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	三宅島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2015年６月５日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	八丈島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年５月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	青ヶ島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年５月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	西之島	火口周辺警報（入山危険） 山頂火口から概ね 2.5km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や溶岩流に警戒してください。	2019年12月16日火口周辺警報（入山危険）
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険） 従来から小規模な噴火が発生した地点及びその周辺では警戒してください。	2007年12月１日火口周辺警報（火口周辺危険）
	福徳岡ノ場	噴火警報（周辺海域警戒） 周辺海域では海底噴火に警戒してください。	2007年12月１日噴火警報（周辺海域警戒）
九州地方・南西諸島	九重山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	阿蘇山	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 中岳第一火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。	2019年４月14日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	雲仙岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況 及び警戒事項	第145回（令和元年12月24日）以降の 特別警報、警報及び予報の発表状況及び 発表年月日
九州地方・南西諸島	霧島山	噴火予報（活火山であることに留意）	2016年12月６日噴火予報（活火山であることに留意）
	霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年４月18日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	霧島山(新燃岳)	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 弾道を描いて飛散する大きな噴石が新燃岳火口から概ね２ｋｍまで、火砕流が概ね１ｋｍまで達する可能性があります。そのため、新燃岳火口から概ね２ｋｍの範囲では警戒してください。	2019年12月20日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意） 2020年１月２日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	霧島山（御鉢）	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年３月15日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	桜島	火口周辺警報（レベル３、入山規制） 南岳山頂火口及び昭和火口から概ね２km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。	2016年２月５日火口周辺警報（レベル３、入山規制）
	薩摩硫黄島	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。	2019年11月２日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	口永良部島	火口周辺警報（レベル３、入山規制） 新岳火口から概ね２km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。	2019年10月28日火口周辺警報（レベル３、入山規制）
	諏訪之瀬島	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 御岳（おたけ）火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。	2007年12月１日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）

この表では、主な活火山として、警報を発表している、または常時観測を行っている火山を示しています。
また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルを示しています。